

令和4年度第8回定例会

八王子市教育委員会議事録（公開）

日	時	令和4年8月24日（水）	午前9時30分
場	所	八王子市役所 議会棟4階	第3・第4委員会室

第 8 回定例会議事日程

- 1 日 時 令和 4 年 8 月 2 4 日 (水) 午前 9 時 3 0 分
- 2 場 所 八王子市役所 議会棟 4 階 第 3 ・ 第 4 委員会室
- 3 会議に付すべき事件
 - 第 1 第 2 9 号議案 令和 3 年度八王子市一般会計・各特別会計歳入歳出決算 (教育委員会所管部分) の調製依頼について
 - 第 2 第 3 0 号議案 国指定史跡八王子城跡保存用地の取得に関する議案の調製依頼について
- 4 協議事項
 - ・「みんなが集う学校の未来」八王子市教育委員会指針について
(地域教育推進課)
- 5 報告事項
 - ・八王子市小中一貫教育に関する基本方針の改定に向けて (学校指導課)
 - ・令和 4 年度 (2 0 2 2 年度) 八王子市学力定着度調査 (第 1 回) の結果及び今後の取組について (教育指導課)
 - ・八王子市文化財保存活用地域計画の認定について (文化財課)

出席者

教 育 長	安 間 英 潮
教育長職務代理者	伊 東 哲
委 員	川 島 弘 嗣
委 員	保 坂 暁 子

教育委員会事務局出席者

学 校 教 育 部 長	小 柳 悟
学校教育部指導担当部長	西 山 豪 一
学校教育部学校施設整備担当部長	八 木 忠 史
教 育 総 務 課 長	渡 邊 聡

地域教育推進課長	高橋健司
学校施設課長	武井博英
学校給食課長	東郷信一
学務課長	山田光
教育指導課長	大日向由紀子
特別支援・情報教育担当課長	鳥越克彦
教職員課長	山野井寛之
統括指導主事	鴨狩淳一
統括指導主事	北川大樹
生涯学習スポーツ部長	平塚裕之
生涯学習スポーツ部スポーツ担当部長	志萱龍一郎
日本遺産推進担当課長	秋山和英
生涯学習政策課長	鶴田徳昭
放課後児童支援課長	倉田直子
スポーツ振興課長	高野良崇
スポーツ施設管理課長	岡部正訓
学習支援課長	松井洋一
文化財課長	叶清
こども科学館長	飯塚由則
図書館課長	一杉昇子
教育指導課指導主事	志村亮介
教育指導課指導主事	福島裕子
教育指導課指導主事	大野木寛
教育総務課課長補佐兼主査	長井優治
教育総務課主任	池上光
教育総務課主事	寺田美緒
教育総務課会計年度任用職員	古瀬村温美

【午前9時30分開会】

安間教育長 大変お待たせをいたしました。本日の出席は4名でありますので、本日の委員会は有効に成立をいたしました。

これより令和4年度第8回定例会を開会いたします。

初めに、本日の議事録署名委員の指名をいたします。本日の議事録署名委員は、川島弘嗣委員を指名いたします。よろしくお願いいたします。

本市では、地球温暖化対策、省資源対策の一環として節電等に取り組んでおります。本定例会においても、照明の一部消灯及び職員のクールビズを実施いたしておりますので、御理解いただきますよう、お願いいたします。

本日の議事でございますが、報告事項「令和4年度(2022年度)八王子市学力定着度調査(第1回)の結果及び今後の取組について」以外の議題については、いまだ意思形成過程のため、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第14条第7項及び第8項の規定により、非公開といたしたいと思っておりますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

安間教育長 御異議ないものと認めます。

それでは、議事を進行いたします。

安間教育長 報告事項となります。

教育指導課から報告願います。

北川統括指導主事 それでは、令和4年度(2022年度)八王子市学力定着度調査(第1回)の結果及び今後の取組について、担当の大野木指導主事より御報告させていただきます。

大野木教育指導課指導主事 これまで、全ての児童・生徒が義務教育終了段階において身につけておくべき各学年の習得目標問題を確実に習得させる取組及び授業改善を続けてまいりました。

令和4年度も、児童・生徒の定着状況を把握するため、八王子市学力定着度調査(第1回)を、5月10日に実施をいたしました。実施教科は国語と算数・数学です。実施した学年は小学校第4学年から中学校第3学年、義務教育学校は第4学年から

第9学年です。第2回は12月6日に実施します。

それでは第1回の市全体の結果を御報告いたします。別紙を御覧ください。国語、算数・数学ともに上段の表は習得目標問題未達成の児童・生徒数について、受験者全体の中での割合を令和3年度からの推移で学年ごとにお示ししています。令和3年度は、習得目標問題のみの出題だったため、全設問中100点未満の児童・生徒数を算出しています。

令和4年度は習得目標問題以外の応用問題も出題しましたので、全設問のうち基礎的・基本的な内容の基礎問題が100点未満の児童・生徒数を算出しました。表にある通り、令和4年度第1回は国語、算数・数学ともに未達成の児童・生徒の割合がどの学年でも増加しています。これは学力定着度調査の内容を大きく変え、出題数を大幅に増やしたことが要因であると言えます。今後は今回と同様の出題数を維持し、定年での推移を確認してまいります。

各学年の習得目標問題を確実に習得させることを目的とするため、この表では全問達成できていない児童・生徒数を算出しておりますが、調査の回を重ねていくごとに達成児童・生徒が増えていくよう、調査の都度課題を明確にし、効果的な取組を継続的に進めてまいります。

なお、令和4年度については、基礎問題の中に一部思考力・判断力・表現力等を問う問題も含まれています。

第2回に向け、知識及び技能を問う基礎問題の正答状況を主に個別指導に活かし、思考力・判断力・表現力等を含めた基礎問題の全体的な正答状況を授業改善に活かしてまいります。

次に、別紙中央部にお示ししているグラフですが、こちらは令和4年度第1回調査の達成児童・生徒数と受験者数を表しています。つまり、全設問のうち基礎的・基本的な内容の基礎問題が100点だった児童・生徒数となります。

続いて、裏面の別添1とA4の別添2を併せて御覧ください。

別添1は、習得目標問題の出題内容または領域別に正答した児童・生徒数を平均してグラフで表したものです。出題内容または領域ごとに、およそどのくらいの児童・生徒が正答しているのかを参考として確認していただくものです。

なお、特に正答率が低かった問題を正答率のグラフの下の吹き出しにお示しして

おります。

別添 2 は、実際の問題を載せています。算数・数学の設問で中 2 の図形の領域、中 3 の関数の領域、小 5 のデータの活用の領域それぞれから特に正答率が低かった設問を参考にお示ししています。

別添 1 から、国語では必修の漢字が定着できていない学年として特に小 5・小 6・中 2 が挙げられます。算数・数学では小数の割り算や分数の表し方、割合やグラフの読み取りなど小学校 3 年生から 5 年生くらいで学習する各領域の基礎的な内容が身につけていない児童・生徒が多くいる可能性が考えられます。国語、算数・数学ともに、前年度までの学習内容を出題範囲としましたので、個人または学年として必修事項のどこでつまづいているのかを明確にして授業改善や個別指導に活かしていくなどの取組が急務だと考えます。

最後に、今後の取組についてです。もう一度別紙にお戻りください。

今回の結果から、第 2 回の調査に向けた取組について別紙の下にまとめました。

初めに、結果が返された直後 7 月の取組です。教育指導課が「習得目標問題確認マニュアル」及び「ドリルパーク連携マニュアル」を作成した上で、調査結果の活用説明会を実施しました。また、全学年の問題用紙を全校へ情報提供し、主に小中一貫教育グループでの協議に活用できるようにしました。学校は個人票を返却した後調査結果とドリル型学習コンテンツをすぐに連携させ、児童・生徒に対して夏季休業期間中等に取り組むことができる課題について指導をしました。

続いて、夏季休業期間中 8 月の取組です。学校は第 1 回の結果を踏まえた取組計画書を作成しています。取組計画書には、

- 1、結果から見出された課題
- 2、今後の授業改善の取組
- 3、習得目標問題の定着が特に不十分な児童・生徒に対する取組

以上の 3 点を具体的にまとめています。8 月 26 日までに全校が教育指導課へ提出することになっておりますので、現在提出のあった学校から内容を確認しているところです。

その他にも、各学校はドリル型学習コンテンツの活用状況を適宜確認しながら児童・生徒の取組状況を追っています。また、一部の学校では、夏期補習教室等で児

童・生徒の学習のつまずきを支援している学校もあります。

続いて、2学期以降の取組です。9月8日に全市立学校の教務主任、学力向上担当教員等を対象に第1回の学力定着度調査報告会並びにブロック協議会を実施します。この会の前半は、教育指導課から第1回の市全体の傾向について報告をします。後半はブロックごとに分かれ、結果を踏まえた今後の取組についての協議をします。他校の取組事例を参考に、自校の取組をより充実させることを狙いとします。また、小中一貫教育の日等において、小中一貫教育グループに共通してみられる課題を明確にし、グループ内で必要な指導・支援方法について検討をしております。

このほかにも、教育指導課として各学校から提出された取組計画を踏まえ指導主事が各担当校を訪問し、取組状況等について指導・助言をしております。

以上が、教育指導課と各学校の取組についてですが、同時に教育指導課設置委員会である学力向上委員会、国語部会、算数・数学部会において現在市全体の学力の課題を解決するための授業改善案等を検討しています。2学期には授業研究も予定しており、部会の研究の成果を令和5年1月に全市立学校へ発表いたします。

最後になりますが、今年度も習得目標問題を解けなかった子どもたちがさまざまな取組を通じて1つでも多くの問題を解けるようになり、自信をつけて学校へ上がっていけるよう補習など効果的な取組をしていけるよう学校へ指導・助言をしております。また、全ての子どもたちの総合的な学力を向上させるためにもさまざまな取組を今後もしっかり重視しながら取り組んでまいりたいと思います。

報告は以上です。

安間教育長 只今、報告が終わりました。

本件について、御質疑をいただきたいと思います。他、御要望等もそこで併せてお話しください。

いかがでしょうか。

伊東委員 御説明ありがとうございました。八王子市教育委員会として年間2回の学力調査を行って、子どもたちのつまずきを把握し、改善していくというプロセスがよく分かりました。その上での質問ですが、国も学力調査をやっているとして、6年生に対してですよね、テストの中には類似の問題等があるかと思うのですが、例えば、国の学力調査で出た類似問題の本市の6年生の正解率など、そういった相關関

係などについて分析されて本市の取組の検証はされているのかどうかということが1点です。

それから、小学校について、先生方は全教科制ですので、国語・算数という教科の学力調査で先生方の授業改善という意識改革につながっていくのではないかとと思うのですが、中学校の場合は、国語と数学の先生が市の学力調査にずっと関わっていて、国語と数学の先生の授業改善に対する意識は向上していくかとは思いますが、それ以外にも英語や理科、社会など、そういった5教科、それ以外の実技教科についても授業改善に対する意識というのを高めていく、それは学力調査からではなかなか難しいのかもしれませんが、その辺りについてですね、例えば、今後学力調査の科目数を広げていくなど、そのような方向性があるのかどうか、この2点についてお伺いします。

大野木教育指導課指導主事 御質問ありがとうございます。

1点目の国の調査との相関関係ということで御質問いただきました。今年度の国の調査の結果が、7月末に情報提供がありましたので、今こちらで確認をしているところでございます。

市全体の傾向をつかむとともに、市の習得目標問題と併せて国の今回の学力調査の中で習得目標問題がどこに当たるのかというところをこちらで確認をして、学校へ周知をしていく予定でございます。相関関係といえますか、国が重視している問題と市が設定している習得目標問題のどのようなところに関わりがあるかということもしっかり見ていきたいと考えております。

それから2点目の御質問でございますが、今後の科目数を増やすというところに関しては今のところはまず国語と算数・数学の習得目標問題をしっかり定着させていきたいということで、当面はこの2教科でやっていく考えでおります。また、国語・数学以外の教員の意識ということで、やはり学力定着向上の柱は市の大きな柱としてやっておりますので、実質的な補習等に教員が入るとするのはもしかしたら難しい部分もあるかもしれませんが、学校全体でしっかり学力向上に取り組んでいくというところの意識は学校のほうに校長会等で周知をしておりますので、そこをやっていきたいと考えております。

以上でございます。

北川統括指導主事　　今の件に1つ補足をさせていただきます。

特に中学校において他教科の先生方が共通理解を持って取り組むのは難しいのではないかとありますが、今回1回目の結果を踏まえて学校としては取組計画を立案するといった手立てを講じております。それを、今回のテストの結果については国語と算数・数学ですけれども、その共通理解を校内でしていただいてそれに基づいて各教科でできるアプローチをしていただく。そういったことを共通で進めていただけるよう、きちんと学校には指導・助言をしていきたいと考えております。

伊東委員　　ありがとうございます。今、統括からお話がありました学校全体として授業改善に取り組むということで、国語、数学などから把握できる子どもたちの状況を強化して、それを教育課程全体の中で各学校の子どもたちに育成すべき資質能力のバランスなど、そういったものを把握することによって全体的な底上げができるのではないかと。そういう意味では、カリキュラムマネジメントというような考え方を活かしながら校内に推進していただけると良いのではないかと思います。

保坂委員　　習得目標に達している人は、ほぼいないわけですね。まあ100%、100点、実際の問題としてどのくらいを目標に考えられているのでしょうか。

大野木教育指導課指導主事　　ありがとうございます。

今御指摘がありましたように、達成している児童・生徒は非常に少ない数となっております。目標としてはもちろん全ての児童・生徒が定着を、習得をしていくというところを目標にしています。このグラフを見るだけでは100点の子を増やしていくというところではありますがこれ以外にも分布として、例えば、8割できた子や7割できた子が、次回の第2回でどのくらい増えているのか。要はこの100%以外の人数もしっかり追いながら、子どもたちの伸びを確認していきたいと思えます。

保坂委員　　ありがとうございます。100%できた子の割合っていうのは、それを目標にするみたいに見えてしまって今お話があったように、80%、70%くらいでどのくらいかというところを見せていただかないと、何か全然できていないんだなとしか見えてこなくて。1回目と2回目との変化というのが意味があると思うのですけれども。もし、達成していない人率0%を目標にするのだとしたら、それはあまりに現実離れしているし目標にもならないかと思えました。

川島委員 1点教えていただきたいのですが、令和3年度の調査の問題の内容は、基本問題のみ、習得目標問題だけだという。今年度は他の応用や、判断能力・思考力を含むとあるのですけれど、そのように変えた経緯、理由というのを教えてもらいたいです。

大野木教育指導課指導主事 ありがとうございます。

昨年度は習得目標問題のみの調査を実施いたしました。今年度は総合的に、まず1点としては総合的な出題というところで、もちろん知識・技能というところも図っていくのですがそれ以外の思考力・判断力・表現力等も含め、図っていきながら授業改善等に活かしていきたいというところが1つあります。

もう1点は、今回この調査を導入するにあたり1人1台の学習用端末との連携というところが大きな取組というか、目玉の1つになるのでその辺りも含めた形で今回この調査を導入しているという経緯はございます。が、使いやすい部分とそうではないという、なかなか色々な部分がありますので、この調査をどうこの施策に活かしていくかというところをよく考えながら、今後もこの調査を活用していきたいと考えております。

北川統括指導主事 今の補足なのですが、これまでの習得目標問題のみの学力調査ですととにかく定着をさせるということのみが目標になっていたのですが、広く今、大野木の説明にもありました通り総合的に学力を把握すると伸びる子がさらに伸びるような形をまずは把握ができるということと、その子たちがどういう問題ができていてどんな問題ができていないのかということが把握できれば、授業改善を行ったりそういったことにも発展的に活用できると。まあそういった意味ですね、少し広めの出題範囲の問題になったということになります。

川島委員 分かりました。ありがとうございます。

安間教育長 では私から。これは令和3年度の1回目と2回目というのは、類似問題なのですよね。だとするとやはりそれが、正答率が上がってきて達成した子が多くなるというのはそれは望ましいのだろうと思うのですが、先ほど保坂委員の御指摘はごもっともな話で、正答率100%目指すということの意味はまた後で話すとして、8割なら良いのか、7割なら良いのか、6割なら良いのかって、それは判断できないと思うのですよ。ですが、6割くらいの子はこうですよ、7割くらいの

子がこうですよという見せ方をしたほうが分析の仕方はやはりそのほうがよろしいのではないですかね。

中学3年生の基礎的な問題の正答率を100%にするという志は素晴らしいけれども、保坂委員がおっしゃった通り現実的な目標ではないのだろうと。この100%達成を目指すのは何なのかというと、八王子市としてこう常々私が申しあげているのは、小学校5年生までの国語・算数の能力がありさえすれば、生きていけるのだと。それを共有しているわけで、100%を目指すのは小5の内容なのではないですか。極端な話、中学3年生で小5までの内容は100%が全員になりましたというのなら、私はある意味下げてはいけない目標だと思う。ですから、年々学年が進むに従って学習内容というのは難しくなっていくのですから、先ほど保坂委員がおっしゃったように、8割なのか、7割なのか、6割なのか、とにかくこの学年の順位上がったということで評価をする。それは良いのですが、同時に100%を目指すものは義務教育が終わって卒業するまでに小5までの内容というほうが、私は私たちが目指している方向に近いのではないかと思います。ぜひこの分析の仕方、また、取組の方法についても捉えていただきたい。

同時に、他の管理職に申し上げておくのですが、教育指導課が学力について取り組んでいますけれども、こういうように継続して子を育てていこうとしているのだ、だから小5の段階でこうだったけれども、それを中3を卒業する時にこうしようと思っている、その連続性というものがある。その感覚で全ての事業が進むのだということぜひ、しっかりと頭の中に入れておいてもらいたい。例えば、学区の編成でも小学校・中学校で分断するのではなくて小学生の学力、今私が申し上げた通り中3を卒業するまでに小5の内容を100%にするとなったら、本当に一貫で取り組む必要がありますよね。中学校に入ったら中学校の勉強だけをしていけば良いのではなくて、やはりそこを補っていかなければいけない。そのような一体型で進めていくというのが八王子の考え方です。そのために自分の部署ではどのようなことを考えていかなければいけない、どういうことを重視していかなければいけないのだとその視点を管理職の皆様方、ぜひ持っておいていただきたいと強く思いますので要望しておきます。

それでは、第2回目の12月実施の結果を楽しみにするという事で今回の学力

定着度調査についての報告、承らせていただきたいと思います。

安間教育長 以上で公開の審議は終わりますが、委員の方々から何かございますか。
よろしゅうございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

安間教育長 私から1点要望。せっかく公開でやっている定例会ですが、このコロナ禍で議案を絞り、公開案件が1件で終わってしまうような状況があるのですけれども、せっかく市民の方々に公開をして即時リアルタイムで教育委員会の取組を話せる場ですから、ぜひ少し工夫していただいて、公開案件でどんどん市民の方々に分かってもらうようなものというものを、もう少し考えてこれから増やしていかなければいけないと思うのでぜひ事務局のほうで検討をしていただきたいと思います、これは要望しておきます。

よろしゅうございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

安間教育長 それでは、ここから非公開となりますので、傍聴の方々は御退席をお願いしたいと思います。

【午前9時57分休憩】